



サステナビリティ研究オープンセミナー 第3回

世界の食と農

2025年3月15日(土) 13:00~15:30



星 泉

東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所・教授



Dr. Kelsi Matwick

Embry-Riddle Aeronautical University

Dr. Keri Matwick

Nanyang Technological University



坂本 真樹

電気通信大学大学院 情報理工研究科

人工知能先端研究センター・教授

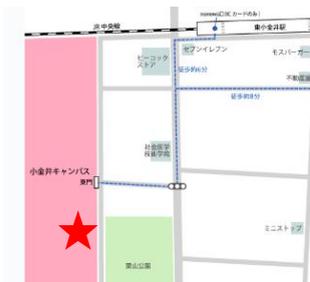
会場:

東京農工大学 小金井キャンパス
140周年記念会館(エリプス)3階多目的ホール

言語:

日本語/英語 (同時通訳あり)

※同時通訳を利用される方は事前申し込みが必要です



参加費無料
当日参加可能
(事前予約を
推奨しております)

予約フォーム



□同時通訳サービスを利用される方へ

Zoomによる同時通訳を行います。

サービスを利用される方は、Wi-Fiに接続可能なPCやスマートフォン等の機器、およびイヤホンをお持ちください

講演プログラム

・星 泉 教授 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所

『チベット・ヒマラヤの食を探る -乾燥と熟成のあいだ-』



チベット高原からヒマラヤ山脈の周辺地域に居住する人々は、高知に適応し、家畜飼養を基盤とした牧畜と農耕を営むことで独自の食文化を育んできた。彼らにとって主要なタンパク源である乳と肉は、厳しい環境で生き抜くために必須の食材であり、越冬用保存食として様々な加工上の工夫が凝らされてきた。今回は重要な保存食の一つであるチーズに着目し、チベット・ヒマラヤ各地に見られる多様なチーズを紹介しながら、その多様性のルーツについても探ってみたい。

・Dr. Kelsi Matwick Embry-Riddle Aeronautical University, USA

・Dr. Keri Matwick Nanyang Technological University, Singapore

Cultivated Meat: Singapore's Pioneering Path to Public Acceptance (培養肉:シンガポールにおける先駆的方向性と社会受容性)



This report explores the public reception of alternative proteins, specifically cultivated meat, also known as lab-grown meat. In 2020, Singapore made history as the first country to approve the sale of lab-grown meat by the US company Eat Just. Research indicates resonance between cultivated meat and Singapore's national identity, conveying the nation as innovative trailblazers.

・坂本 真樹 教授 電気通信大学 電気通信大学院 情報理工研究科 人工知能先端研究センター

『「しゅわしゅわ」「すっきり」オノマトペの音象徴に着目したおいしさの数値化』



食べたり飲んだりしたときの印象を直感的にオノマトペで表現する実験を行い、音韻に五感印象が結び付く音象徴性に着目し、分析した結果を報告します。また、任意のオノマトペを数値化するシステムや所望のオノマトペで表される印象を実現する食べ物や飲み物の分量や材料を提案するシステムについても紹介します。

<お問い合わせ先>

西東京三大学共同サステナビリティ国際社会実装研究センター



Email: department@go.wt-jdpsr.jp



Website: <https://web.tuat.ac.jp/~jcsri/>

